

## 2021 バレーボールミーティング Q&A 第2弾 (20210912 現在)

Q '海外の充実した育成システムを日本に導入した場合、日本の順位を上げることは出来ると考えられますか？

A 可能ではないかと考えます。日本でも以前から一貫指導システムの開発のことは何度も話し合われていますが・・・現状として、戦術及びテクニカルな部分での共通認識が薄いように感じます。様々なアンダーカテゴリーでもシステムやスキルについても育成システムに組み込むことで良い方向に進むのではないかと考えます。

Q ワンレグとの重なりを避ける為に OP がスロット B に入る攻撃は'19W 杯で USA がかなり見せていましたが(当時の OP は Law 選手)、今回の五輪ではアメリカの対戦チームはそれにうまく対応できていなかったということでしょうか？

A アメリカのオフェンスシステムは、基本的に相手ブロッカーのギャップを狙うスロットからの攻撃を仕掛けているように感じました。正に世界の男子バレーのトレンドに向かっているように感じます。また、今回のアメリカの OP (ドルース) の攻撃力を最大限活かしたコンビパターンを構築しているのではないかと推察します。

Q '現在の日本の御家芸とは、何でしょうか？

A かつては、ディフェンス (ディグやつなぎ) をお家芸とされている傾向であったように思います。しかし現在では諸外国に比べて特出しているものがあるかという点に疑問に感じます。

Q 中国のミスの中でも特に勝敗に影響を与えたと感じられるミスは何でしたか？ (スパイク、サーブ、セットアップ等) また、そのミスが出てしまった原因の予想を教えてください。

A 中国はスパイクミスが多かったと思います (データの検証が必要)。あくまでも予想ですが、コンディション調整不足としか考えられません。

Q 2016 の rio 五輪から 2018 年世界選手権の間には、今より男子化が進んでいた (同時多発位置差攻撃) が見られるようになっていたのに、各国とも今回それが退化したように見えました (特に中国やイタリア、セルビアもそうです) が、それはどういう要因によるのでしょうか？ ピーキングの問題？ それとも相手のサーブ戦術による？

A 今回コロナ禍での開催ということもあり、細かいコンビネーションが必要となる攻撃部分が単純化されたのではないのでしょうか。またご指摘のように当然「ピーキングの問題」や「相手サーブ戦術」によりミスの少ない固い攻撃バリエーションになったのではないかと考えられます。

Q 'バンチやスプレッドなどブロックの隊形に関する傾向は見られましたでしょうか？

A 今回横からの映像のみでしたので、なかなかご回答は難しいです。ただデディケートで待つケースは前回 Rio より増えたのではないのでしょうか（推測）。

Q 'ミドルがクイックよりも、ブロードを優先する理由は何でしょうか。

A かつて女子ではライトからのバックアタックが主流ではなかった頃、コート幅を広く使うために多様されてきたと考えられます。現在は多くのチームでオポジットのバックアタックが使われていますが、ブロックにおいて横移動を強いるため今なお使われていると推測します。

Q 女子で S3 で、OP が C1 バックアタックに入らず、11 bick に入る（後衛 OH が攻撃参加せず）、前衛 MB がブロード、それが使われる理由は何でしょうか？

A 前衛 MB がライト側で構えることが多く、確実に攻撃枚数を確保するためではないかと推測します。サーブレシーブがネットから離れたところに返球された際、MB がセッターを追い越せず攻撃が潰れてしまうより、確実に攻撃参加できるブロード攻撃をベースにし、サーブレシーブに参加しない OP がパイプに入ったほうが確実と考えているのではないのでしょうか。

Q '女子の場合、ネットの高さなども関係しますか？ >サーブ

A ネットの高さは男子に比べて女子の方が 19 cm 低いことから、サーブに関して到達時間や軌道が関係しているように思われますが、男子の打点（最高到達点の平均値で約 40 cm）が高いのでネットの高さに関係ないと思われます。

Q 'ジャンプフローターサーブのアプローチについては、何か傾向がみられますか？

A ジャンプフローターサーブに関して、通常男子の場合少し前に陣形を取りオーバーでレセプションしたりするのですが、近年の傾向（戦術）としてハイブリッドサーブ（同じフォームからフローターとドライブの使い分け）が出てきたので、レセプション陣形を作ることが難しくなっています。ジャンプフローターサーブを効果的に打つために、ハイブリッドサーブというサーブ戦術が生まれたのではないのでしょうか。

Q '女子はネットが低いことと、フローターサーブが多いことは関連ありますか？

A 上述したようにネットの高さに関係していないと思います。しかしながら男子に比べて女子はパワー（力×スピード）が弱いため、スパイクサーブのような強烈なサーブを打つ選手が少ないようです。今後は男子のようなハイブリッドサーブを打つ女子選手が出てくると考えられます。

Q 'ブラジル以外、オポのバックアタックが多かった印象。なぜ、パイプが主流にならない？結果的に、3枚確保はされていても、4枚確保は少なかったように感じますが、いかがでしょうか？

A 映像からブロックシステムがはっきり読み取れなかったのですが、デディケートで待っているブロッカーに対して手薄なライトサイドからのバックアタックが多かったのではないのでしょうか（データの検証が必要）。また単純にパイプに入る選手よりオポの選手の方が決定力があつたためとも考えられます（推測ですが）。

Q 'ショートサーブやジャンプスパイクサーブが有効であるのにも関わらずジャンプフローターサーブを使う際のメリットを教えてください。

A ジャンプフローターサーブはジャンプスパイクサーブと比較して、ミスを抑え継続できるメリットはあると思います。戦術的にターゲット（ゾーンや人）を狙いやすいとも考えられます。また、時間のコントロールもしやすいメリットもあると考えています。以前私の担当する学生が卒論のテーマで、審判のホイッスルからサーブを打つまでの時間とサーブの効果について調査した学生がいましたが、時間の幅が広がったのはジャンプフローターサーブでした。しかしながら今後は、ジャンプフローターサーブを打つ選手も、積極的にハイブリッドサーブへと進化する可能性が高いように思います。チーム内での役割や、ジャンプサーブを中心とするビッグサーバーとのバランスの関係もあるとも考えています。

Q 'ローテーションごとに、サーブの狙いと連動したブロックの仕掛け、に傾向はみられましたでしょうか？特定のアタッカーを潰すことを前提にしたブロックシフトなど

A おそらくあつたと考えられます。アナリストからのデータをもとに、セットプレーでは積極的にブロックの配置や反応を変化させていたと思います。

しかしながら、コート後方からの映像が少なかった為、客観的な検証が必要であると考えています。

Q '男子バレーの決勝戦や日本対ブラジル戦などとてもラリーが続いていて、日本以外の国のレシーブ力に驚きました。このようなレベルの高い世界の男子バレーで日本が勝つていくためには、どこに伸び代があると考えられますか？

A アナリストのデータをベースにした相手に対応した戦術（戦い方）を考案すること、バレーボールを理解し、戦術を遂行する能力を持った選手の育成、そのためにポジションに拘らないレセプション力、セット力、マルチテンポの攻撃ができる選手の育成、さらにそれをベースとした個人の特徴（強み）を生かすチームマネジメント力、などなど、選手だけではなく、指導者を中心としたチームを支えるスタッフの育成に伸び代があると考えています。

Q 'トップレベル男子では、どうしてワンレグ攻撃をしないのでしょうか。

A 私見ですが、コート幅 (9m) とトップレベルの男子の体のサイズとブロックの反応と移動時間が関係していると考えています。ワンレグ攻撃のメリットは、踏切位置と打球位置のスポットをずらして、ライト側でのファーストテンポの攻撃を繰り出しやすいことにはありますが、デメリットは、両足踏切に比べ高さが落ちる（選手によっては高くなる選手もいると思いますが）ことと、踏切位置から打球位置を比較的予測がしやすい（C クイックの位置から D クイックの位置へとアプローチでわかりづらくしている選手もいますが）、ことではないかと考えていて、男子の場合、リードブロックで上記の理由からほとんど対応できてしまう、と思います。それよりも、バックアタックを絡めた常時 4 人での同時多発位置差攻撃と、エアフェイクでのクイック（踏切位置から打球の位置がわかりにくい）、の方が効果が高いのではないかと考えています。女子の場合は、男子と同じコート幅に対し、体のサイズと反応時間が男子ほどではないため、ワンレグ攻撃のメリットを十分に発揮できるのではないのでしょうか。実際、日本の大学男子レベル（体のサイズの的には女子ナショナルクラスと同程度？）だと、ワンレグを使う選手は多く存在し、メリットを十分に生かせる可能性があるように思えます。夢物語かもしれませんが、例えばワンレグでコート幅いっぱい（例えば約 7m くらい？）ネット上部でボールを打てる状態でジャンプできる男子選手がいて、セットされたボールと同じ方向にワンレグでジャンプして（常時ボールが打てる状態で）、ブロックがないスポットで撃ち抜く、ということができたら、男子でもワンレグがトレンドになる可能性もある、とも考えますが（大昔にこんな話でバレーボール仲間と盛り上がりました）、流石に難しいでしょうね。

Q '男子と女子のブロックシステムがほぼ同じとのことでしたが、同じであるならばなぜ男子では MB のブロードが標準化しないのでしょうか。

A 他の質問で同様の回答をしていますので、省略いたします。「私見ですが、コート幅 (9m) とトップレベルの男子の体のサイズとブロックの反応と移動時間が関係していると考えています。・・・」

Q 'ブロックはデータが一番使われるとおっしゃっていましたが、アタッカーが打つ確率の高いコースに集中してブロックを固めるという事ですか？

A その通りだと思います。トップレベルだと 1 点ブレイクすることが非常に重要で、その起点となるブロックを中心に、サーブのターゲットをどうするとか、ディグの位置をどうする、などの戦術が考えられるのだと考えています。

Q '女子のサイドアウトとブレイクの割合ってどれぐらいですか？

A およそ、サイドアウト 65%、ブレイク 35% が平均的ではないのでしょうか。

Q 'フェイクセットの時、ブロックはどのように待たせますか？

A やはりベースとなるバンチリードブロックでの対応が、ベストではないでしょうか。

冷静に考えると、フェイクセット前のツーアタックの多くはビックのような同時多発位置差攻撃の一部である絞り込むことが難しい攻撃ではなく、単純なセンターからのバックアタックであり、フェイクセット後の攻撃も、それほどテンポの速いものではないと考えますので、実は十分にバンチリードで対応できるのではないかと、とも思えます。フェイクセットがあれば効果的であるというのは、裏を返すと実は世界もバンチリードブロックがそれほどできていない、と考えられるのではないかと、とも思えます。特にツーの場面でバンチリードの準備ができていないと考えられます。しかし、同時多発位置差攻撃を警戒して、例えばデータに基づくブロックの配置や反応を準備していた中で、フェイクセットだと考えられますので、そのような状況が絡み合って、効果をはっきりしているのだと考えています。

Q '男女ともに、日本が昔、技術的に優れていたようなことを体格の良い諸外国の選手ができるようになってきていると思います。話題にも出ていましたが、技術的に日本人の方が劣っていると思います。男子はいろいろと考えていたと思いますが、女子に関しては、アナリストからの情報がベンチに届いているのか？と思うほどでした。日本は何が課題で、今後、どのように改善していく必要があると思いますか？

A 一概にこうだと意見するのは非常に難しい問題だと思います。アナリストの立場から考えると、男女関係なく、世界に興味を持ち、我々指導者や選手を支えるスタッフが、バレーボールを楽しく深く、選手含め互いに尊重して学ぶこと、に活路があるような気がしています。